



米國に於ける Air port 設計圖案の一部

航空寫眞は如何に利用せらるゝか

測量地圖の及ばざる 點を補ふ

工學博士 田中 豊

飛行寫眞の實用價值は、寫眞測量として或工事計畫の最初のプランを立てるに用ふるが良い。都市に於ては建造物が複雑してゐるからインクローズされた處などは空中寫眞ならでは正確を期し難い様な事もある。

參謀本部の測量部の地圖なども新しい地上の構造物を年々改訂して行くと言ふ事は容易ならぬ事であるから、古い地圖よりも新しい空中寫眞測量に依つたならば如何に正確であるか知れない。

○

鐵道の事故發生の場合に參考資料として撮影せらるゝ從來の寫眞は側面のみであるから實際の研究資料としては餘り參考にならないが、脱線とか、衝突とかの事故の直後を迅速に平面的に上空から撮影したならば正確な參考資料を得る事が出来る。

○

河川の水流の方向なども、水面の浮流材を空中寫眞に撮つたならば最も正確な參考資料を得らるゝと思ふ。洪水時の氾濫區域等も刻々に變化するので到底普通の測量をなし得ない斯る際には飛行寫眞の利用が最も適してゐると思ふ。

○

飛行寫眞の利用は以上の外にも種々と考へられる事であらうが、先づ從來の測量方法や地圖の缺點を補ふ爲めに用ひる事が急務であると思ふ(文責在記者)

淀川の減水時期を 撮影す

内務省東京土木出張所長

工學博士 眞田 秀吉

河川工事には護岸や水制が種々の材料や工法で施工されるが、此の實際的の効果を知る事は中々困難な事である。河川工學の立場からも此等の効果を知る事は大切な問題であつて、大學や試験所などでは模型などに依つて之等の實驗をされるが、それも中々經費を要する事である。實驗の方法も自然状態を知る事は中々困難な事と思はれる。單に水の深い時とか、浅い時とか、種々の自然状態で施工物の作用が異なるので實際の河川の結果に就て調べるのが最も必要な事である。それには飛行寫眞の利用などが最も適當してゐるものと思はれる。

以上の目的で自分は曾て大阪にゐる時、昭和三年の秋だつたと思ふが、湯水時期の淀川を飛行寫眞に撮つた。當時はまだ其利用が稀であつたから撮影の機會も中々得られなかつたが、恰度大阪市が都市計畫用として飛行寫眞を撮る事になつたので、其次手に撮つて貰ふ事にした。其時は各務ヶ原の飛行隊に依頼

して川口から約十里位の上流まで撮影して貰つた。當時は新しい研究資料として参考になつたものである。此は現在も内務省大阪土木出張所に保管されてゐるものである。

河川に於ては種々異つた状態があるので、或必要な調査時期に於て迅速に空中から河の状態を撮影して置く事は今後益々其必要を生ずる事と思はれる。(文責在記者)

判讀法を研究すべし

東京發電株式會社技師長

大 島 滿 一

私の所ではまだ撮つてはゐないが、飛行寫眞を各種の工事に利用するのは大變便利なことだと思ふ。

水力工事などでは、堰堤の築設箇所や、隧道の中心線、鐵管路及發電所の位置等を決定する前に、飛行機から寫眞をとつて置けば、仕事が非常に樂になる。

參謀本部の地圖は大抵五萬分の一だが、飛行寫眞だと縮尺が殆んど自由で2000分の一位までに出来るから、川の流れや樹木の關係などずつかり分つて都合が好い。

○

飛行寫眞はその様に便利なものだが、茲に遺憾に思はれるのは、寫眞の讀み方がまだ一般に徹底してない點である。つまり寫眞として一つの平面に現れる處の山や川の高低を讀む方法が行き渡つてゐない様に思はれる。

工事畫報の今度の企ては非常に面白いと思ふから、此際、飛行寫眞の判讀法、つまり寫眞に同高線をつける方法を、一般に普及さして貰ひ度い。(文責在記者)

古川博士の飛行機漫談

老來益々頑健な古川阪次郎博士の元氣な話を聞く、五月九日午前十時、鐵道協會書記長室の圓卓を圍んで(記者)

昨年朝鮮に行つて彼地で飛行寫眞を實用的に使つてゐる事を聞いたが、飛行機から撮つた寫眞に依つて土地の高低測量圖が立派に出来る様になつたのは實に便利な事であると思つた。

飛行機で寫眞測量をする事は平面的に考へて見て時間が早い事と、間違の少い事とに於て最も經濟的な測量法であると思つてゐるがそれが立體測量にまで用ひられる様になつたのは非常な進歩である。

○

飛行機の利用は單に測量のみではない、其特性を適當に應用したならば種々な方面に用ひられるであらう、例へば天然の景勝地たる山岳とか河海とかは飛行寫眞に撮るが最も良い趣向であると思ふ。五月十五日から開業する金剛山鐵道の延長線などは最も良い處であるが、あの崇巖極まる峰巒の姿は飛行寫眞に依つて知る外はないと思ふ。今後は京城から金剛山まで日歸りの見物も出来る様になつたので、金剛山鐵道會社では宿泊所や食堂や餘興場其他公共的な設備や建物まで造つて六月から開業する事に努めてゐる。

○

私はまだ飛行機に乗つた事はない、先達も日本空輪から頻りにすすめられたが、立川まで出掛けるのが厄介な事だと思つてゐる。飛行機も今日の如く交通機關として世界的なものとなつたからには、發着場をもつと便利な處に造つてもらひ度いものだ。都會地に於てビルディングの屋上を連絡したならば簡単な發着場が出来る、而して都市の中心地から定期飛行が發着したならば非常な便利である。同時に飛行機交通の發達も著しいものがあるだらう。現に海には航空母艦さへ使用されてゐるのだから、ビルディングの屋上使用なども考へて然るべきものだと思ふ。(文責在記者)